



ニッセイ情報テクノロジー株式会社

# NISSAY IT REPORT

大規模システムにおけるDBMS移行の難所と成功のポイント  
～証券管理パッケージ（NIT-XNET Plus+）におけるベストプラクティス～

2026.4

## はじめに

当社の資産運用ソリューション事業部では、機関投資家向け有価証券管理パッケージソリューション（NIT-XNET Plus+）のDBMS\*1として、従来のOracle®データベースに加え、新たにEDB Postgres® AI データベース（以降、EDB）を採用した製品をリリースしました。

本レポートでは、約2年におよぶOracle®データベースからEPASへの移行開発を通じて得られた知見を踏まえ、DBMSの移行開発を成功に導くためのポイントをご紹介します。

\*1 Database Management Systemの略

## DBMS移行開発における難所

### 開発終盤まで検出され続ける「非互換」

\*2 製品間の仕様差異により、移行前後で処理の挙動や結果が相違すること

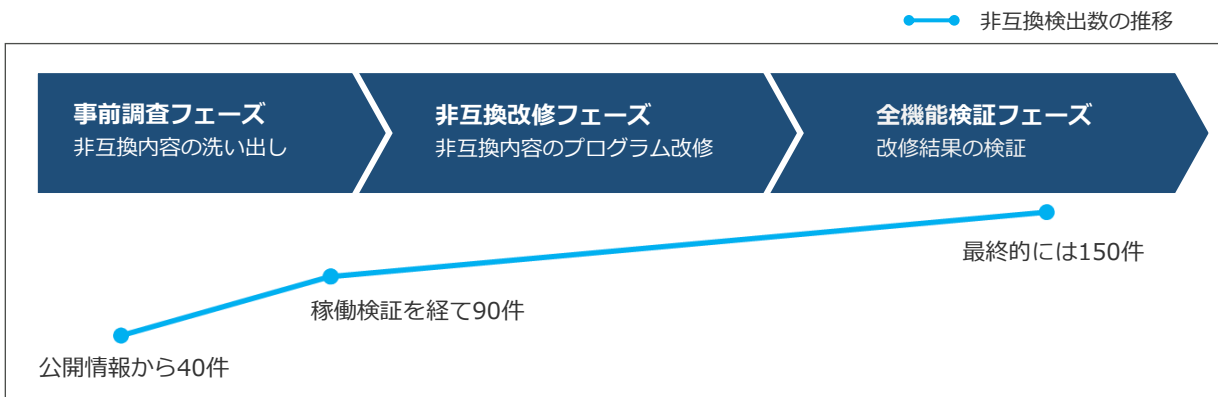
DBMSの移行開発においては、移行前後の仕様差異に由来する非互換\*2のプログラム改修（非互換改修）が開発の大半を占めます。この非互換改修をどのようにして計画通り進めるかが、プロジェクト成功の鍵を握ります。

移行開発では、まず非互換を把握し、影響範囲を明確にすることが重要です。非互換の把握にあたっては、公開情報（製品資料など）に基づく机上調査により一定の確認は可能ですが、一連のプログラム処理を通じて顕在化する非互換を網羅的に把握することは困難です。そのため、新しいDBMS環境において稼働検証を行う事前調査フェーズが不可欠になります。

確認方法	確認できる非互換内容
机上調査	EPASではサポートされないDBオブジェクトやデータ型、関数などの非互換
稼働検証	データ型の解釈の違いや暗黙的な型変換による演算結果の差異などプログラム処理に内在する非互換

一方で、事前調査フェーズでDBMSに関わるあらゆる観点での稼働検証を行うことは現実的ではなく、非互換改修フェーズ以降も少なくない量の非互換が新たに検出されることとなります。実際に今回の移行開発では、公開情報を基にした机上調査の時点で確認できた非互換は約40件、さらにサンプルプログラムによる稼働検証では、事前調査フェーズ終了時点で約90件の非互換を確認できました。しかしながら、約3000あるプログラムの全機能検証フェーズまでも非互換の検出は続き、最終的には約150件まで積み上がることになりました。

このように、非互換改修フェーズや全機能検証フェーズに至っても新たに検出される非互換に対し、どのように対処していくかが、DBMS移行開発成功のポイントになります。

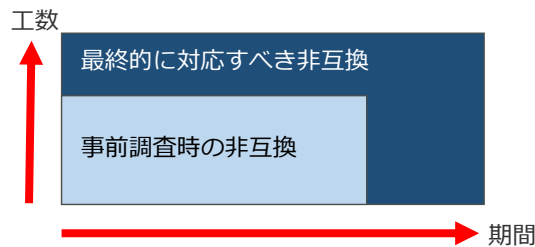


## 成功のポイント

### ポイント1：事前調査結果+aの非互換検出を想定した計画

今回の移行開発で検出した非互換は、開発完了時には、事前調査フェーズで洗い出した件数の約1.7倍に上りました。

検出数の増加割合についてはシステムによって異なるため一概には言えませんが、事前調査フェーズにおいてあらゆる観点での稼働検証を行うことは現実的ではありません。したがって、後続のフェーズで新たな非互換が少なからず検出されることを前提に、対応可能な体制とスケジュールをあらかじめ確保しておくことが重要になります。



### ポイント2：質の高い非互換情報の獲得およびサポート体制の構築

稼働検証を効果的に進め、できるだけ早期により多くの非互換を洗い出すためには、いかに質の高い非互換情報に基づいて検証計画を立てられるかが重要です。また、開発全体を通じて検出される非互換への対応においては、DBMS製品固有の深い知見が必要になる場合も想定されます。

これらの観点から、適時適切なサポートを得ることは非互換改修を円滑に進める上で必要不可欠であり、計画段階からDBMS移行の知見を持つしかなるべきベンダーとも協力関係を構築しておくことが望まれます。



質の高い  
非互換情報

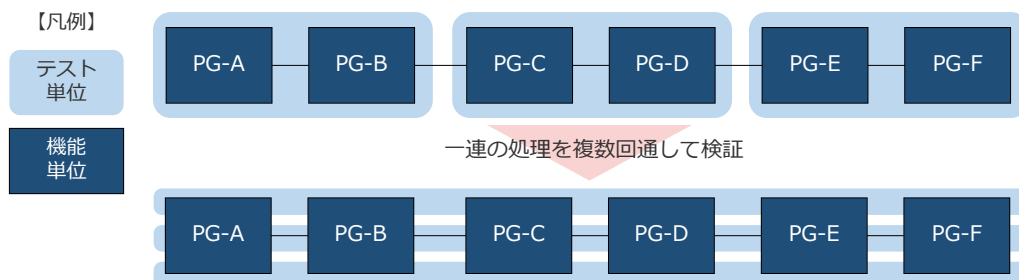


しかるべき  
ベンダーの協力

### ポイント3：一連の処理を通した全機能検証を複数回実施

全機能検証フェーズの主目的は改修結果の検証ですが、未知の非互換が検出される可能性が高いことから、全機能を網羅した検証を行う必要があります。

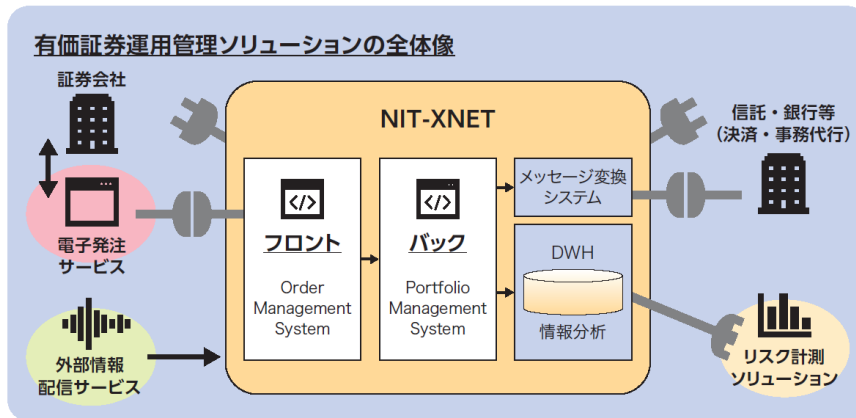
また、数字・文字列型の解釈の違いや演算時のデータ型の扱いの違いなど、処理の流れの中で非互換が明らかになる場合もあるため、一連の処理を通した検証ケースを複数のバリエーションで実施することが有効です。



## おわりに

当社のNIT-XNETサービスはこれからも有価証券運用管理業務の業界共通プラットフォームとしての役割を担い、業界共通サービスとして利用いただけるよう、製品機能・サービスに加えシステム内部においても進化を続けて参ります。

有価証券管理業務に関するご相談はもちろんのこと、DBMS移行に関するお困りごとがありましたら、ぜひご連絡ください。



「NIT-XNET」および「NIT-XNET Plus+」は、ニッセイ情報テクノロジー株式会社の登録商標です。  
 「Oracle」は Oracle Corporation の商標または登録商標です。  
 「EDB Postgres」はEnterpriseDBの商標または登録商標です。

## 執筆者プロフィール



資産運用領域にて大手金融機関向けSI案件のPMを歴任。その後、NIT-XNETソリューションの新製品（NIT-XNET Plus+）開発のPMを経て、現在は同ソリューションの製品開発を統括。

### 寺田 均史

資産運用ソリューション事業部  
 上席プロジェクトマネジャー



大手金融機関向けNIT-XNET導入案件のPLを歴任。その後、NIT-XNETソリューションの新製品（NIT-XNET Plus+）開発の開発リーダーを経て、現在は同ソリューションの製品開発リーダーに従事。

### 松田 京子

資産運用ソリューション事業部  
 プロジェクトマネジャー

お問合せ先

資産運用ソリューション事業部

TEL : 03-5714-4543 E-mail : info@nissay-it.co.jp

ニッセイ情報テクノロジー株式会社

〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア

<https://www.nissay-it.co.jp>

※本文中に掲載されている商品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。

All Rights reserved, Copyright©2026 Nissay Information Technology Co., Ltd.

(本誌記事の無断転載・コピーを禁じます)  
 2026年4月発行 NIT2025-181(資運001)02